



今年も日本語科短期生が
来日しました!

A先生の新語コーナー



gòngxiǎng jīngjì “共享经济”

シェアリングエコノミー(共有型経済)。個人の遊休資産を他人のために活用し、利益を得るといふ従来にないビジネスモデル。インターネットを介して行われる。民泊や相乗りサービス「ライドシェア」などがその代表例。中国はシェアリングエコノミーの先進国といわれ、その市場規模は昨年末時点で約1兆9500億元。今後5年間の年平均伸び率は40%前後が見込まれ、2020年の市場規模はGDPの10%以上に達する見通し。

(A)

第20回「日中学院倉石賞」候補推薦のお願い

「倉石武四郎先生記念基金(倉石賞)」について

1951年に倉石先生は「日中学院」の前身である「倉石中国語講習会」を創設し、1972年の日中国交正常化までの21年間、苦難、苦闘の歴史を歩んできました。その間「中国語を学んで日中友好の架け橋になろう!」の旗印をかかげ中国語教育の普及と発展に力をそそぐとともに、日中友好の架け橋となる人材を多く輩出してきました。しかしながら、1975年11月、その後の学院の隆盛をみることなく逝去されました。

倉石先生の没後、ご遺族から寄付金をいただき、その後この基金をもとに1989年に「倉石武四郎先生記念基金」を設けました、その年の11月に第1回「倉石賞」授賞式を行い、今年で第20回を迎えるまでに
主催：日中学院

要 項

- 対象 ○中国語教育の普及、発展に貢献した個人、団体 (在日本、中国を問いません)
○日中の民間友好交流に尽くした個人、団体 (在日本、中国を問いません)
- 募集締切り 11月30日(水)まで
- 発表 2016年12月中旬
- 授賞式 2017年2月(予定)
- 授賞内容 賞状、副賞30万円
- 推薦書 学院HPよりダウンロードし、郵便又はメールにてお送り下さい。
- 問い合わせ 日中学院03-3814-3591/e-mail: info@rizhong.org

過去の受賞者一覧

- ・「中国図書館図書分類法」翻訳・出版 近野チウ、毛利シン
- ・「北京的西瓜」実在の主人公 五十嵐勝・五十嵐フミ
- ・「内山書店」 故内山嘉吉・内山松藻
- ・「思源寮」 菅野俊作
- ・多摩中国語講習会 小寺修
- ・中国語教育史研究 六角恒広
- ・世田谷日中学院 片岡公正
- ・全国高等学校中国語教育研究会
- ・「季刊・中国現代小説」刊行会
- ・話劇人社
- ・731部隊展実行委員会
- ・現代中国映画上映会
- ・中国語友の会
- ・日中芸術研究会
- ・中国帰国者の会
- ・映画「侵略」上映委員会
- ・日本シャンチー協会
- ・長谷川良一
- ・中国山地教育を支援する会
- ・古屋昭弘
- ・高野悦子と岩波ホール
- ・いばらき中国語を学ぶ会と井坂孝雄
- ・日中文化交流協会 白戸吾夫
- ・現代中国語講座
- ・静岡中国語講座
- ・興水優
- ・長谷川清司
- ・段躍中
- ・(公財)国際文化フォーラム

(受賞順)

ピンポン外交から2020年オリンピックまで

講師：木村興治氏（公益財団法人日本卓球協会 名誉副会長）

皆さん、こんにちは。講師の木村興治と申します。今日は本当に中国のことをよく知っている方ばかりの出席ではないかと思いますが、日中学院の皆様方からのお招きでやって参りました。日中友好会館の評議員もさせて頂いている関係もありましてこの一帯には、何度も来ています。

1、国際卓球連盟とは

現在、世界のスポーツ連盟には、陸上や水泳等多くのオリンピック種目がありますが、国際卓球連盟に加盟している協会数は世界一の222です。オリンピックを主催するIOCは、206です。何故、卓球はオリンピックの加盟国より多いのでしょうか。オリンピックの加盟単位は国ですが、卓球は協会で加盟します。これがユニークなところです。世界選手権ともなりますと、加盟した協会には参加する権利があります。ですから、2014年の東京での世界選手権には、加盟している北朝鮮が出場しました。警備など、政府との調整や準備が大変でしたが、当然のごとく受け入れました。またある時は、ユーゴスラビアが内戦状態にあった2010年、モスクワで世界選手権大会があり、当時のプーチン政権は、コソボ選手の入国を拒否しました。しかし、国際卓球連盟は、コソボ選手を入れなければモスクワの開催権を取り上げようと決議をしました。最終的にはロシアの外務大臣が大会期間中のコソボ選手のモスクワ滞在の許可書を発行し、入国することができました。

国際卓球連盟というのは、国の加盟ではなく地域加盟なのです。ですからイギリスも、オリンピックではグレートブリテンという一つなのですが卓球の場合は、イングランド、ウェールズ等それぞれの地域で加盟しています。これが卓球のユニークなところです。もちろん、これは先程のユーゴスラビアの分裂、それからソ連邦の分裂、アフリカの新しい国が独立するということもあり、IOCに加盟する前に卓球協会に加盟します。そのようなこともあり加盟協会が増えているのです。これが私の卓球の好きな所でもあります。

国際卓球連盟は、1926年にケンブリッジ大学の22歳の学生であった、アイボ・モンタギューによって創立されました。モンタギューは初代会長と

なり41年間会長職を務めました。モンタギュー家は、イングランドの中での有力な貴族のうちの一つで、彼はその長男であると後からわかりました。何故、モンタギューが中心になったかということ、英語の他にフランス語とドイツ語が堪能だったからです。チェコ、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、ルーマニアなど七つの協会で会議をし、組織を作り、ヨーロッパ選手権を行うことになりました。1926年のことです。しかし当時のイギリスには支配しているインドからの留学生がいました。彼らを参加させることにより、ヨーロッパではなく世界になるというアイボ・モンタギューのアイディアで、インドを入れ世界という名前を付けられる環境で、第一回世界選手権大会が開かれました。モンタギューは、私の尊敬する方で何度もお会いしていますが、身長は180センチ以上もあり、体も大きく、非常にゆったりした方です。社会主義国家に大変な関心を持っていたことをあとで聞いて驚きました。1953年、モンタギューは訪中し、彼の強い勧めにより、中国はその年国際卓球連盟に加盟しました。国の加盟であつたら、当時の状況を考えると難しかったと思います。当時は中華民国（台湾）が、国連には加盟していましたが、卓球協会には加盟していませんでした。中国は中華人民共和国がChinaとして加盟できるということを選んだのではないかと私は考えています。そして中国は、その年の世界選手権にすぐに参加しました。これがモンタギューの凄いとところだと思います。日本は戦前、加盟していましたが、当然除名されていました。1949年にモンタギューの尽力により再び国際卓球連盟に加盟しました。その後、1952年、1954年とそれぞれ世界選手権で世界を驚嘆させるメダル獲得を成し遂げるわけです。それを中国は当然のごとく見ていました。日本が出来て、中国が出来ない訳がないと。

2、1956年東京世界選手権への中国の参加

1956年に日本では初めて東京で世界選手権大会が開かれました。当時の日本と中国の交流は、政治的には全くなく、経済的にも極めて少ない状況でした。そのため中国人選手団の入国には、困難を極めました。しかし、1953年頃の周恩来総理に

よる中国に取り残された日本兵帰還事業もあり、中国の卓球選手を入国させなければ、今後の日中関係に大きな影響を与えるかもしれないとの配慮もあり、また国際卓球連盟の加盟協会は参加する権利があるというルールにより、約30人の代表団を受け入れることが出来ました。当時の中国の卓球はまだあまり強くはありませんでした。東京大会で日本は、大きな勝利を収めました。荻村伊智朗さんが、シングルや団体が優勝し、女子のシングルスも優勝しています。中国が最初にChinaと名乗ったのが、卓球でした。弱ければ世界に対して訴える力はないということで、この頃から中国は卓球の強化に取り組み始めました。日本も中国も貧しい時代で、十分にスポーツにエネルギーをつぎ込むような環境ではありませんでしたが、卓球の場合は非常に狭い場所でも出来ますから。

3、1959年ドイツ大会での中国人選手の優勝から

1959年、ドイツでの世界選手権大会で、中国は男子シングルスで香港出身の容国団が優勝しました。香港は国際舞台に何度も出ていましたし、日本とも何度も卓球の交流をしていました。中国は選手、指導者、監督やコーチも香港から呼寄せていました。そういう状況でも中国は中国国内で育成した選手も参加させていました。後に国際卓球連盟の会長を務め、現在の中国卓球協会会長である徐寅生です。そして中国は国際卓球連盟の強い要請に基づき、1961年に北京で世界選手権大会を開催する決定をこの時しました。中国は、China（中国）を世界に訴えるため、全国から能力の高い選手を集め徹底的な訓練をしました。コンクリートの床の上に置かれた卓球台のもとで。

4、北京での世界選手権

1961年北京で世界選手権大会が行われました。私は代表に選ばれました。当時20歳でした。香港でビザを取り、北京に入りました。私にとって初めての外国が、香港、そして北京だったわけです。香港から列車で深圳まで行きました。当時はベトナム戦争の最中でしたから、中国深圳で最初に目についたのは「美国帝国主義打倒」という大きな看板でした。聞くとアメリカを中国語では美国と言うとのことでした。最初の印象は中国と言うのは政治そのものが一般社会に堂々と表現されている社会なのだと感じました。しかし、我々に対する歓迎は、広州の人々の心配りが感じられました。その後広州から飛行機で給油しながら13時間かけて北京に入りました。世界選手権大会は工人体育

館のこけら落としとなりました。連日超満員で、当時日本でもまだテレビは普及していませんでしたが、会場に入れない多くの人々が、卓球を見るために公開の場でテレビで観戦している姿を見た記憶があります。中国で世界的なイベントを行ったのはこの時の卓球が初めてでした。それもあり、中国要人が連日のように卓球会場に来ていました。観客からは中国人選手がポイントを取るだけで、大きな歓声が上がっていました。男子の団体では中国が日本を破り初優勝を遂げ、世界に衝撃を与えました。今までずっと日本が勝っていましたからね。結局中国は男子団体、男子シングルス、女子シングルス、三種目で優勝し、日本は女子団体、男子ダブルス、混合ダブルスで優勝しました。いかに中国がこの大会を目指して強化してきたかということで、その力を示す最初の戦いの場になったわけです。その時から今日まで中国の卓球は世界のトップです。大会最終日、表彰式が七時くらいから行われました。表彰式後、日本選手団は周恩来総理から夕食に招かれました。確か北京飯店だったと思います。日本の選手団は監督以下11名が招待されました。当時中国側が大使級として処遇していた西園寺公一さん夫妻も一緒でした。8時頃に周恩来総理出席のもと食事会が始まりました。周総理は我々若者のことも考えて長くは話せませんが、周恩来総理の言葉が今でも忘れられません。後でホテルに帰り要約したのですが、周総理は、「中国の社会制度、人民の生活はまだまだ他の国と比べて遅れています。封建社会的なものも残っています。纏足という悪い風習も残っています。そういうものにはスポーツが極めて大切だと私は考えています。これから、スポーツを盛んにしていきたい。その中で卓球は中国人民に非常にあっているように思う。日本は先に強くなったので、中国は日本に学んでいます。これから、日本と中国で卓球の交流をするべきだと思います。これは卓球選手のみならず、卓球を通じて交流することによって、日本の国民も中国の国民もお互いを知ることになるのではないのでしょうか。これからは是非、協会のリーダーの方に考えてほしい。」という内容でした。

まだ国交が全くないこの時代に、周恩来総理がそのようなお話をされたことで、私は本当に大きく世界を考える方なのだと、若者の単純な思いですが、それを強く強く感じたことを覚えています。その周恩来総理のお話が今でもとても心に残っています。(次号へ)

短期研修へ参加して 本科2年 高橋明花

今年の北京への短期研修は、本科2年生だけでなく、別科の方も含めて16名で参加となりました。私は初めての海外で、何かと慣れないことが多くその度に沢山の方が助けてくれました。研修先の中国人民大学では、学生がボランティアで学習のパートナーとしてついてくれました。初日は彼らと顔合わせをし、そのまま大学内の案内をしてもらいました。大学内はとても広く、案内中に自分がどこを歩いているのかわからなくなるくらいのものでした。パートナーの方たちはとても親切で、私達のために日本語の勉強をしてくれる方もいました。私は最初、日本人はあまり好かれていないのではと不安でしたが、電車の中で私が日本人だとわかって声を変えてくれる方も多くて嬉しく感じました。

中国の生活に慣れてきた頃に、万里の長城に上りました。翌日は筋肉痛で動けないほどの長い道のりで、日差しも強く、景色はいいものの日陰が

ない道をただ歩くのは辛いものでした。ですが、行けるところまで行けた時の達成感と、壮大な景色はとても印象深い思い出となりました。他にも故宮や天安門、茶館などの北京に来たら是非！と言われるようなところには一通り行くことができました。どれも新鮮で楽しい思い出です。

今回の研修を通して、体験して見なければ分からないことが多いことを知りました。日本とは違う文化で、少し眉をしかめる様な出来事もありました。ですが、知ることができて視野が広がり、とても良かったと思います。

研修を終えて、より一層中国語を学ぼうという意欲が高まったように感じました。



2016年度北京短期留学見聞記

高木美鳥（本科2年担任講師）

今年の北京は“悶mèn”な日が多い。カラッと晴れずに、なんとなくじとー、じわーと蒸している。この“悶mèn”な暑さは疲労を感じやすい。“晴天 qíngtiān”は、溶けそうなくらい暑いので、それもうつらいのだが、いずれにしろ暑い。そんな気候の中、総勢17名の留学生活が始まった。天安門広場、故宮は、いつも通りではあるがものすごい人だ。地方からの旅行者が多い。こんなに天安門や故宮を見たい人が国内にまだいるのかと思うくらいだ。広場や故宮に入る前の“安检 ānjiǎn”（セキュリティーチェック）が厳しいと同時に、“掉头 diàotóu”（Uターン）できないところが多くて、いったん流れを外れると大回りして戻る羽目になる。人民大学の日本語専攻の学生が随行してくれたが、「なぜ中国には“安检”があって、日本にはないのか」について意見を書くのが夏休みの課題だそうだ。我々の結論は「中国は人が多すぎる」となった。この学生を含め、今年は20名もの人民大学の

学生が“志愿者 zhiyuànzhě”として“语伴 yǔbàn”（言語学習のパートナー）になってくれた。日本語専攻の学生が多いが、なかにはロシア語専攻、芸術専攻、情報処理専攻などもある。が、ほぼ全員片言でも日本語ができ、“我喜欢日本的动漫 dōngmàn。”と言う。アニメから日本語を学んでいて、とにかく詳しい。さまざまな日本語のアニメ言葉が飛び出すのだが、その辺は疎いのでさっぱりわからない。日中双方の若者たちはそれぞれどんどん話が進んでいる。アニメ恐るべしだ。一人の芸術専攻の学生はアニメを学びに日本に留学したいそうで、面白い言葉をいくつか教えてくれた。例えば“工口 gōngkǒu”“修罗场 xiūluóchǎng”など。今文字をご覧の皆さんにはなんだか察しがつくと思うが、発音のみでは難しい。前者は「エロ」のカタカナを漢字に見立てている。後者は日本語をそのまま中国の発音にして、意味もそのまま使用している。このようにして多くの日本語がアニメ

を通じて中国に輸入されている。また、彼にはアニメに登場する日本人の生活が本当なのかどうか知りたいと言われた。例えば小学校で学校対抗のスポーツの試合があるのかとか…こういう形で日本人の生活を理解しているのだなと感慨深かった。

日中似たもの探しをしているわけではないのだが、日本とかかわらないもの、日本的なものを見かけることが多くなった。とくにこちらの注目度も高いせいか、食べ物に気になるものが多い。毎年必ず行くパン屋では“小鸡仔 xiǎojīzǎi”という「名菓 ひよこ」に似せたお菓子や“咖喱牛肉 gāli níuròu”というカレーパン、“半熟芝士 bàنشú zhīshì”（半生チーズケーキ）“葡萄奶酥 pútáo nǎisū”（レーズンウィッチ）、さらには日本語で「北海道のテクニク」と大きく宣伝している“北海道蛋糕 běiháidào dāngāo”というロールケーキのようなものも新製品として売り出し中だ。流行りは“爆米花 bàomihuā”（ポップコーン）。キャラメル味“焦糖奶油味 jiāotáng nǎiyóuwèi”は普通だが、海苔味“海苔味 hǎitái wèi”もある。

さらには、カレーが増えた。すでにCoCo壺が進出しているが、先のカレーパンや、“肯德基 kēndéjī”は“日式咖喱鸡饭 rìshì gālijīfàn”（日本式カレーチキンごはん）などいろいろある。増えたと言えばカフェも多い。大学の周りだからかもしれないが“咖啡”の文字をそこかしこに見かける。増えたものでは、“外卖 wàimài”（ケータリング）のバイク。人民大学構内にもたくさんやって来るし、路上、車の波をすり抜けて走る姿がとにかく多い。

2、3年くらい前から言われる外資の“本土化 běntǔhuà”作戦。近くのセブンイレブンには“凉皮 liángpí”“青椒土豆丝 qīngjiāo tǔdòusī”などのお弁当があり、現地に適した品揃えが面白い。また1年に1度7月11日を“感恩日 gǎn'ènrì”と称して、88元の“福袋 fúdài”を売っていた。中身は211元相当の进口货 jìnkǒuhuò、“畅销货 chāngxiāohuò”だそう。予約をとる店員の熱心さに負け、また「限定」に弱い私は思わず1つ買ってみた（写真）。日本にはないサービスなので物は試しである。

1年に1度、しかも同時期の訪問において、人民大学周辺には特に大きな変化というのはない。が、小さい変化はいっぱいある。毎日過ごしてい

ると気が付かない、或いは慣れてしまうその変化に、まる一年ぶりの訪問者は敏感だ。初めての訪問者はもちろん自国との違いにさまざまな驚きがあろうが、リピーターは以前どおりではないことによくも悪くも戸惑いを感じる。中国だけでなく、日本もそうなのだろうか？私のように、1年に1度日本を訪れる他国の人が眼にする日本は、東京は、「あ、変わった」と思われる要素がいっぱいあるのだろうか。今年、やはり物は試しで行って見た美容院の美容師が「日々変化し、進歩する。変化が遅ければ、他人に付け入られる。だから早く変わるんだ。」と言ったが、留学生説明会で紹介した例年の情報がちよくちよく裏切られる中、そんなことを考えていた。



中国残留孤児問題フォーラムのお知らせ

日 時：2016年10月2日（日）

入 場 料：1,000円（午前・午後共通）

午前の部：映画「望郷の鐘」上映10：00開演
残留孤児の父と言われた山本慈昭。みずからも満州で過酷な体験をしながら、生涯を残留孤児たちの肉親さがしにささげ、献身的な愛でささえた。その山本慈昭の生涯を生い立ちからたどった感動の物語。

午後の部：シンポジウム 13：00開始

テ ー マ：敵国のこどもを育てた中国人養父母

場 所：江戸東京博物館大ホール

チケットは事務局にて取り扱い中です。

9月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
				1 ●本科授業再開・倉石奨学金募集開始	2	3
4	5 ●本科 避難訓練	6	7 ●本科 倉石奨学金募集締切	8	9	10 ●別科 公開講座 13:00～
11	12 ●本科 追試 (～16日)	13	14	15 ●中国語検定 受付開始	16	17
18 ●別科 短期研修 団出発(～24日)	19 ●祝日	20 ●別科休講	21 ●別科休講	22 ●祝日	23 ●別科 公開講座 18:45～	24 ●別科 公開講座 13:00～
25	26	27	28	29 ●別科262期 最終日 ●日中国交回復 44周年	30 ●別科学期間休み (～10/7)	
●10月の日中学院 ・1日…本科 17年度生推薦入試受付開始 別科 朗読大会			・7日…別科 公開講座 18:45～ ・8日…別科 263期 授業開始 ・15日…中国語検定 受付締切		・29日…文化祭	

図書室 だより

☆ピンイン・音声付き読み物を配架しました!

- 《中文小书架・汉语分级读物》シリーズ
※ピンイン・映像(音声)ディスクあり
- 《学汉语分级读物》第1級～第3級 シリーズ
※音声ディスクなし・ピンインは一部のみ
両シリーズともに北京語言大学出版社発行



この度図書室では北京語言文化大学出版社発行のピンイン・音声ディスク付きの読み物テキスト本《中文小书架・学汉语分级读物》シリーズを多数配架いたしました。この読み物テキスト本は、初級、中級等のレベル別に分かれており、個人の学習程度に合った読み物を選ぶことができます。内容も中国の民間伝説や神話、西遊記などの古典物語など、中国の文化を理解しながら易しい言葉でわかりやすく読みこなすことができます。また付属のディスクは本そのままの本文・イラスト画像が出ます。本を開かなくても本文を目で

追いながら音声を聴くことができます。

また、同じ北京語言文化大学出版社の《学汉语分级读物》シリーズは、音声CDはなし、ピンインは一部しかつきませんが、こちらにも『三国演义』や『紅樓夢』などの古典文学作品や『白蛇伝』や『月下老人』などの民間故事を中国語学習者が読みやすいように書き下ろされています。こちらは第1級(500漢字)第2級(800漢字)等使用漢字数によりレベルが分かれています。両シリーズとも数多く取り揃えていますので、どのような本なのか、ぜひ図書室までチェックしにいらしてください。図書室は2階一番奥です。皆様のご利用お待ちしております。

☆ 新着図書 ☆

- 《在日本・島国88元素》毛丹青主编 华东理工大学出版社
- 《知日 第35期 現代霓虹艺术力》中信出版社
- 《日本第一》[美]傅高义 著 谷英、张柯、等译 上海译文出版社
- ※エズラ・F・ヴォーゲル著『ジャパン・アズ・ナンバーワン』中国語訳本

☆ 寄贈 ☆

下記の方々より寄贈がありました。御礼申し上げます。
●(公財)日中友好会館 顧問 村上立躬様(著者)より『日中友好会館の歩み』
●三瀧正道様(監訳者)より『必読!今、中国が面白い。Vol.10』